

随時参加団体を加えていくこととして

また、このキャンペーンは、いかにして観光客を誘致していくか。さらには、誘致した客への接客マナーの向上をいかにして図っていくかなど、その受け入れ体制を構築していく中で地域の連携が強く求められているものだろうと思っている。

したがって、この時期にとどまらず、これを契機とした地域連携、また、地域活性化という目的をもあわせ持つイベントなので、観光関係事業者のみならず、市民一人一人が白石の観光案内人という意識を持っていただくよう、今後PRに努めてまいりたい。

【その他の質問】

①エコファーマーの認定を受けようとしている農業者の支援策について。

「4万人都市復活大作戦」について
白政会 吉田 貞子

【質疑】人口減少の要因をどのように把握しているか。

企業立地促進条例の効果を实际歩いてみてどのように判断しているか、見解を伺いたい。

また、同作戦を展開するにあたって、妊婦検診への助成拡大、休日保育、南中学校建設、定住促進奨励金を挙げておられるが、これらの新規事業を決定した経緯とその内容について伺いたい。

【答弁】人口減少の要因として、自然動態が一番大きな要因ではないかと考えている。企業立地に関しては、現時点で二、三の企業の照会はあるが進出の実績はない。一番感じたのはPR不足と感じている。

また、妊婦検診への助成拡大、休日保育、定住促進奨励金については、昨年から5回ほどの会議の中、議論を重ね、妊婦検診への助成拡大については、職員提案制度による提案があり、出産支援がまず少子化対策として有効な手段の一つであると思われることから、実施しようとするものである。

休日保育については、平成16年度に策定した次世代育成支援行動計画に上げており、これまでその実施に向けて詳細検討を重ねてきたところである。

【その他の質問】

①「白石市企業立地促進条例」のように、なぜ条例化なされなかったのか。

②新年度の白石市独自新規事業を決定した経緯と内容について

「4万人都市復活大作戦」について
高橋 純斎

【質問】「4万人都市復活大作戦」というビッグタイトルがついているが、なぜ4万人としたのか、「大作戦」というのであれば、5万人とか6万人といった大きな目標になかったのか伺いたい。

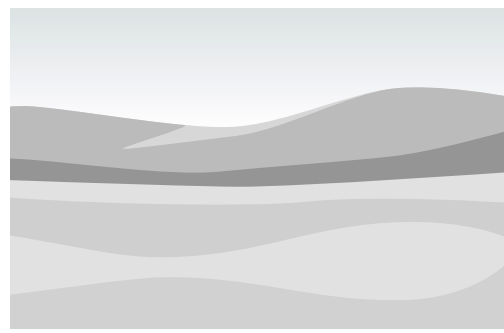
【答弁】昭和29年に白石町ほか6カ村が合併して白石市が誕生した。昭和32年に小原村が編入になったとき4万6千6百70人、これが白石市の人口で一番多いときだった。そこから減り始めて、平成17年には3万9千4百87人にまで減少しており、4万人に戻すというのは、至難の技だと思っている。

ただ、手をこまねいていることはできない。だからこそ4万人復活の理念である。

【その他の質問】
①市民と行政のパートナーシップについて市民はこれを受け入れているか。
②農業の振興「需用」に応じた米づくり産地づくりのシス

口で一番多いときだった。そこから減り始めて、平成17年には3万9千4百87人にまで減少しており、4万人に戻すというのは、至難の技だと思っている。

テムについて市長の具体策を示されたい。他



豆辞典

農地・水・環境保全向上対策事業

農林水産省では、平成19年度から、農地・水・環境の良好な保全とその質の向上を図る新たな対策として「農地・水・環境保全向上対策」を導入し、農業農村保全活動を支援して、将来にわたって農業・農村の基盤を支え、地域の環境の向上を推進することになりました。地域の農業者だけでなく、非農家、自治会等の関係団体を含めて活動組織を構成してもらい、これまでの保全活動に加えて、農道や水路等の施設を長持ちさせるようなきめ細かな手入れや農村の自然や景観などを守る地域共同活動に対して支援するものです。

白石市では、白川小奥、大鷹沢笠松、大鷹沢六区、福岡上原、福岡山根、福岡八宮地区の6地区が取り組む予定です。